



若者の視点から見てくる地域創生のヒント 知事と若者の地域創生ミーティング in 白鷹

6月5日、吉村美栄子山形県知事が本町を訪れ、「知事と若者の地域創生ミーティング in 白鷹」が開催されました。今回は白鷹で暮らす若者11名に参加をいただき、若者が力を発揮できる環境づくりや地域課題、定住促進、地域の元気創出策などについて率直な意見を語っていただきました。

参加者はそれぞれ、地元を離れて初めて知った良さや県外から来たからこそわかる白鷹町の良さを抱いており、その良さをうまく発信できていないことに課題があると感じていました。また、「暮らしの中で特に不満はないが、楽しみもない」と感じている方が非常に多く、「若者が楽しめるイベント」が必要であると話し、「各地区に伝わる伝統行事や伝統工芸、町のイベントなど魅力を秘めたものがあるにもかかわらず、若者離れが進み、内容もワンパターン化してきている。だからこそ若者同士のネットワークを広げてアイデアを出し合い、魅力あるイベントづくりをしていきたい」。などと活発に意見を述べ合いました。

「地元に関心を持つ子どもを増やしていきたい」「若者が住んで楽しい町こそ、子どもたちが住みたくなる町」。そう強く思う若者が、何か行動を起こしたいと考えている中で、どのようなサポートが必要なのか。若者が語る白鷹町の地域創生策について、吉村知事は真剣な眼差しで耳を傾けました。



災害時に電気車両及び給電装置を提供 三菱自動車と災害時に関する協力協定を締結

白鷹町内で自然災害等により大規模停電が発生した場合において、白鷹町と山形三菱自動車販売との間で車両からの給電装置の提供協力をいただく協定を締結しました。

この協定は、万が一に備え、「災害発生時の初期活動として行動できる仕組み」を市町村と協力して構築していきたいという、山形三菱自動車販売様よりお声かけによるもので、電力や燃料の供給が途絶えた場合の機動力のある非常用電源として初期対応が期待されます。



協定書を交わす佐藤町長（左）と小野社長（右）



新 たな仲間とともに町の魅力を発信 地域おこし協力隊で新たに2名が着任

6月3日と17日に地域おこし協力隊の委嘱状交付式が行われ、新たに着任することとなった須藤充司さんと廣瀬将丈さんに委嘱状が交付されました。

須藤さんは十王地区を活動拠点とし、小売業に勤務していた時に培った食品の知識を活かして紅花と町内の農産物を活用した商品開発を目指していきます。

廣瀬さんは観光協会を活動拠点とし、これまで山形県のPR活動を行ってきた経験を活かし、町の観光情報発信業務を中心に観光と町の魅力を広める活動を行っています。



談話する須藤さん（左）と廣瀬さん（右）



観 光客に対する“おもてなしの心”が称えられ しらたか旅先案内人が表彰

6月6日、山形県観光物産協会通常総会において、町の観光ボランティアガイドである『しらたか旅先案内人（梅津トシ子会長）』が功労者表彰を受賞されました。

同団体は、平成3年発足以降、「置賜さくら回廊」をはじめとした観光イベントの際、観光客に対する案内役として長年にわたり町の誘客活動にご尽力いただきました。その功績が認められ、このたびの受賞となりました。

現在会員は13名で、毎月研修会などを行いながらおもてなしの醸成に努めていただいています。



表彰を受けたしらたか旅先案内人の皆さん



食 べる力は「生きる力」を育てる 柴田真佑さん講演会『お互い様』を開催

6月30日、柴田真佑さんの講演会が白鷹町産業センターで開催され、今回は「食育」と「防災」をテーマに貴重な体験談を交えて語っていただきました。

東日本大震災で家族や友人を失い、途方に暮れる子どもたち。給食が復旧したその日、「もう食べることができなくなった人の分までしっかりといただく。」そう心に刻み、悲しみを乗り越え生き抜こうとする子どもたちの経験から「食べる力」がどんな災害にも負けない「生きる力」を育むことと気づかされ、経験の中から導き出された食育の大切さに参加者は心を打たれました。



参加者に「食育」の大切さを熱く語りかける柴田さん